On the Road　祝！連載100回突破記念　宇田有三氏の世界

宇田有三氏 特別インタビュー

本誌独占インタビュー、宇田氏の素顔に迫る！

宇田氏本人から届いた似顔イラスト

1990年に教職を辞し、その後、世界各地で写真を撮り、ルポルタージュを発表しているフォトジャーナリスト、宇田有三氏。しかし、宇田氏本人についてはあまり知られていないのが実情。そこで今回、宇田氏ご自身についてのインタビューを紹介する。

Q 教職をやめたのはなぜだったのですか？

A 「先生」という仕事に特に不満は無かったのですが、それよりも、日本以外の世界を直接、自分の目で見て確かめたかったというのが理由でしょうか。自分の常識や言葉の通じない所でドキドキしたいという変な性癖（？）のせいかもしれません。

Q フォトジャーナリストを目指した理由は何だったのですか。

A 言葉を超えて物事に関わりたい、或いは写真という媒体を通せば、日本語にとらわれることなく自分の経験を伝えられると思ったからでしょうか。日本のメディアは、写真よりも言葉（書くこと）を上に置くような風潮を感じていたので、あえて写真をメインに、書くことを二の次にして伝えていこうと思いました。

また、経済的に自立していく手段として、自分のやりたいことを（理想と現実を）天秤ばかりにかけると、まあそれなりに、このあたりの仕事が妥当かな、と。

Q 取材で大変だったことを教えて下さい。

A う～ん、取材で、大変だったこと、辛いことはできるだけ早く忘れるようにします･･･、でないと前に進めないので（反省が少ないので、いつも同じような失敗をしていますが）。

取材そのものよりも、ついつい怠けてしまう自分と闘わなければならないこと。ボスがいないフリーランスは、毎日、寝て暮らせます（お金は入ってきませんが）。

持論として「仕事は何でも大変だ」と思っています。

Q 取材でお仕事の意義を感じたことを教えて下さい。

A メインストリームでは取り上げられることのない小さな声を伝え、記録できたと自分で思えたこと。また、写真を見てくれた人からダイレクトに反応が返ってきたこと。20年近く前に読者の人に貰った手紙は今でも大切にしています。

Q これからの夢は何ですか？

A
・今のフリーランスの仕事を続けていくこと。
・アフリカに行きたい。
・ちなみに、1998年に初めてパースを訪れた際、いつの日にか、パースに住んでそこから海外に取材に出て行くというのが夢でした。

Q パースエクスプレスで連載を始めたきっかけは何だったのですか？

A う～ん、忘れてしまいました（笑）。

Q 読者へのメッセージをお願いします。

A 一時はパースに移住を目指した身としては（今でも諦めた訳ではないですが…）、原稿を書いている時はいつも、パースを思い浮かべています。これだけ長い連載を続けているのも、どこかでパースと繋がっていたいという想いがあるのだとも思っています。

まあ、どこに住んでも、どこで仕事をしても、そこが自分の世界となるのですが、そちら（パース）に住めるのが、羨ましい限りです。

また、連載記事に関わることで感想をもらえれば、今後の励みになります。

宇田氏が98年にパースで撮影した、黒鳥やワイルドフラワーなど、パースを象徴する写真の一部。

© THE PERTH EXPRESS